

## 新しい通知表について

今年度から新学習指導要領による指導が始まりました。その背景には

子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化する可能性がある。

厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が求められる。

子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現していくことが求められている。



育成を目指す資質・能力の三つの柱  
学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養



確かな学力  
 健やかな体  
 豊かな心

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

新学習指導要領の改訂のねらいに、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うこと」とあります。この改訂の主旨を受けて、これまで4観点で子供たちの学習状況を見取っていましたが、今年度から①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力の3観点で評価を行います。

### これまでの4観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

### 学力の3要素

知識・技能

思考力・判断力  
 ・表現力等

主体的に学習に  
 取り組む態度

知識・技能の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価します。

各教科等の知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。

各教科等の主体的に学習に取り組む態度に係る観点の趣旨に照らして、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

評価に関しては主体的、対話的で深い学びの視点から、記述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫します。